（明治四十一年十二月五日第三種郵物認可）　（日刊）日曜及祭日休刊　明治四十二年十一月十五日（月曜日）　第二百六十四號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き旅を行くが如し急ぐ可らず

明治四十二年　紀元二千五百六十九年
本紙定價（金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢）
大祭日及日曜日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金（五十錢▲五號活字十七字詰一行一回金十七錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢）
發行兼編輯人　高木久馬太郎
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

甘茶澁茶

▲吾我を欺かず　指きり金きり臂を刺して一札如件に血を捺しキット夫婦となるべきことを誓ふも一朝にして冷たき流れの兩人の間に注ぎ來らば血判終に物言はず一札如件の如きは反古となるなり、誓書の百札あるとも亦た何をか爲さんや、人と相誓ふは唯心にあるのみ心にしてくるゝ無からば下らぬ誓書は無くても哉なり、要は唯誠字にあるべく吾は唯我を欺かざれば足るなり。

▲夢見に終らん　人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからずとは云へ決して憩ふべからざるなり、果報は寢て待てとは云へ決して唯るべからざるなり、憩へば則ち畢は暮れ、懶れば則ち報來らず、急がず睡らず待つあるべしと雖も然れども事を捕ふの力なくては遂に其れ夢見に終らんか。

▲月明自腦胸　物を觀るに主觀と客觀とあるなり、而して克く之を觀んと欲せば必ずや主觀と客觀とを要す、一方之を缺けば遂に見を誤まる、唯客觀のみに是れ由る時は數々象を平面にのみ現はすことあり唯主觀にのみ是れ由る時は偶々影を二樣に寫すことあり、世間往々にして賢愚の分たざるものありと云ふは大概一方を缺ひて物色するが故にして是れ猶ほ酔人が月を見るに腦胸として二つに見ゆるが如きなり、人を見んと欲せば必ずよく瞳を据ゑて見ざるべからず

北韓の近事

小倉主計監の談

北韓に出張して一昨十一日夜歸任せられたる小倉主計監を軍司令部に訪ひ其視察談を聴く。曰く。予が今回出張の目的は主として北韓に於ける軍用地の調査運輸の設備と其の實施に關する件及會寧に於ける歩工兵營基礎工事中に付き其狀況を見んが爲めにして一般地方の狀況に至りては仔細に觀察するの遑なかりしも唯予が見聞せし二三を語らんに

▲交通　は今時固より十分を望む能はずとするも尚不便ならずと云ふを得ん假りに會寧に赴くとせんか釜山を出帆して元山及城津に寄港し各二十四時間以上繫泊して清津に着し同地より羅南に至る十五哩は日露戰役當時敷設されたる手押式輕便鐵道に依り羅南より會寧迄七十五哩間亦輕便鐵道に依る此の途中茂山嶺の險峻あり頗る難路なるが這も亦日露戰役の遺物にして軍人軍屬及軍需品輸送の餘力を以て旅客又は地方人の用に供し居れり

▲羅南　は鏡城と輪城の間に展けたる大平原中にあり三方山にして要害の地なり兵器は翠々落成し予が着したる時には既に諸兵の移轉を了り居たるも未だ落成式を擧げざりしにより本月三日天長節の佳辰を以て之れを擧行したり北韓の地に斯る雄大なる營戍地を占め得たるは眞に心丈夫に感せらる本邦人は約一千名あり兵營を巨る五六丁鏡城街道に軒を並べ商家は店頭に貨物甚だ豐なるを見たり山手には遊廓を在り景氣好し去れど家屋は悉く假小屋式にて永住の設備を爲せる者なし原來陸軍にては兵營に接したる軍用地内に市街を建設するの計畫を立て地所を貸下げ居れども建築家屋に制限を設け例のバラック建を許さゞる爲め前述の如く鏡城街道に市街を作したるが如し之れ資本の關係もあるべく且居留者の幾分は大工事の爲め入込みたる者なれば今日の好景氣は永續すべきにあらずとの見を持せるにも依るべし予も斯る急速の發展が十分健全なるべしとも思へず而かも所定の市街地も大部分は希望者に貸付けたるに依り來年秋の頃にもならば一大市街の形成せらるべきを豫期す市街は歐洲式に設計せられ即ち中央は公園にして其周圍に官衙、學校、病院、銀行等を設き普通人家は其外に建てしむることゝせり學校を軍用地内に建築中にて今は假校舍を用ゐ居れり（未完）

俳句

●五吟集總評（一）　ひら

怒られては困るが何うも臭味がある、想も句調も舊いのは差し閊へないが卑いのにはウンザリする、想と調の舊いのは吟者其の者の夫れが卑いのではなくて題とか結字とか云ふ窮窟のものを限るからである、題を課し結字を定めて句を作ると云ふのは餘興に催すべき時に限られたい、結字を課するのならば何の題を廣くして吟想？を恣にせしむべきであらう、題を限ると云ふことが少なからぬ苦痛である、然るに更らに結字を附するなぞと云ふ拙な真似をするから然うなるのである、決して吟者の罪ではない、型に入れば鋳でも其型以外には出ぬもの、此れは僕の一家言ではないのだから特に幹事諸君の參考に資する次第である。

想と調の舊くなると云ふことは以上の原因があるのだが、調や想の卑いと云ふことは誰れの罪でもない作家其のものの罪である、自身の句を自身が直ちに世間に發表するのなら反覆考慮して推敲に推敲を重ぬる必要もあるが、既に撰者があつて曲りなりにも選する以上は曲りに考へぬが宜しい、此點は慾つては困るが考へて却つて悪しくする。例は幾何もある、矧んや俳句は考へるものでないもの、目に觸れ耳に聽きたるものを直ちに詠み出でしこそ妙味一層なるものである、とまで申したら題を課し結字を附するの不可なる所以は明瞭であらふ、想の卑いのは俳句は平民文學であると云ふ生若い議論に捉へられたる心理作用が然らしむるのである、平民文學と云ふ、平民と云ふものが社會的地位の低いものだから其の文學と云ふ以上は高尚ぶり一と心掛けたら却つて平民文學と云ふ旗幟に疵が附く、との樣に誤解せるより來るものと、僕は斷じて居る。

雜報

●婦人界（一の七）　婦人世界と伯仲の雜誌にして本誌には女子と迷信、虚榮に憧れたる女の運命、誤れる化粧法、家庭料理等設むべき短文和歌俳句化粧問答小說雜報百般の記事備はり口繪挿畫は例に依て多く美し（東京日本橋本町三金港堂書籍株式會社△廿錢

●實業之日本（二三）　新渡戸の日米問題に對し我國民は如斯覺悟を要す、親切を施すには如斯注意を要す、增田の家庭の平和は如何にして保つべき其他三井内閣實業通信、不景氣時代事業經營の秘訣其他例により成功失敗談等讀むに足るもの多し△東京京橋紺屋町○△拾一錢

●流車流船滿韓旅行案内（第五號）　題の通り滿韓地に關する流車流船に就て有ゆる事項を載する外沿線各地の重要概況用語より旅行便覽地圖などあり交ぜ日誌の記入欄をも設く△毎月一回一日大連信濃町南滿州社發行

●黒髪（第一）　消毒法の勵行、如何にして美人となるか、最新式の美顔術、顔の濕し方、顔の拾好と結髪、髪の養生像、國の化粧法文苑等專門家以外にも一讀の値あり△大阪西區阿波座上通二關西理髪會△十錢

●貿易月報（十四）　貿易、貿易關係事項、稅關報告を載せ次號よりは貿易報と改題す△關稅局發行

第三十一席　神田　松鯉口演

伯山改　神田　松鯉口演

爲朝の弓勢で清盛は青くなつて驚いた是れは堪らんと引退くのを、重盛は大いに憤慨し「武士勅命を受けて敵に向ふに、敵強しとして退くことやあらん」と獨り馬に鞭つて引返した、清盛は平宗清に命じて無理に重盛に馬の轡を執らせて退かした、清盛と云ふ人は幸運なもので若し此時此門へ向つたら、清盛も重盛も爲朝の唯一發の矢の下に討死をしたに相違ない、山田惟行從者の馬は鞍に矢の突つた儘義朝の臣政家の陣中へと跳入る、政家之れを義朝の陣に持來り「我が君御覽候へ、八郎殿の射給はる所でございませう、實に世にも恐ろしき弓勢でござる」と舌を卷いて驚怖した義朝は「イヤ八郎の剛弓は兼ねて聽いて居れどまだ年十八九にして是程の力はあるまい、久しく遭はなんだに依つて其力も何程あるや知れぬ、死に角汝一當當すし見よ」と言はれ愈「り畏つて候」と百騎計りを從へワアッ〳〵と鬨の聲を揚げて進んで來た、やがて政家は弓に矢番へて放つたのが爲朝の半首に中つた、爲朝大に怒り「惡しき下郎の振舞かな其儀なら何條當つくき下郎の振舞かな其儀なら何條當方に於ても敢て遠慮致すべき、者共進めッ」と下知して自から陣頭に立つて進み給へば、廿八騎の面々も我劣らじと突擊する其勢の猛まじさに政家一戰も交へずして退いた、爲朝も敢て長追をせずして引返し門に入らんとし給へば、忽ちに義朝大軍を率ゐて殺到し義「ヤア〳〵八郎、汝は兄に向つて弓を引くか」と罵りますれば爲朝は「コハ奇怪のことを承はるものかな、兄上は何故父に向つて刀を揮はるゝぞ、自から不孝の罪を犯しながら我れの不悌を責めらるゝこそ片腹痛し」と罵り返す義朝は語塞つて何とも返答されず爲朝兜の星を貫き寶莊嚴院の門の半分まで人數少なきを見て擊つて掛つた爲朝は敵の多いのを見て、中をかけ隔てら引絞つて兵と放しますれば、其義朝の射込んだ、義朝一時はアッと驚かれたが義「ヤア〳〵八郎よ、汝が射術未だ精妙ならず、今少し修練がなくてはならぬぞ」爲朝カラ〳〵と打笑ひ「わざと射申さゞるにて候、若し命せられしば何處にても射申さん」と再び弓矢注へ給ふに、父は此に在り兄は彼れに在り畢竟親子兄弟相分れて戰ふは何れが勝ち何れが負けても、互ひに命乞ひをして助け合ふことも出來やうと、折角注へたる矢もはづしてしまはれた、此時義朝、清盛等もそれを破ることが出來ません、義朝も今は詮方なく西門の方へ火を放ちましたので煙も盛んに立昇り、折柄の西風に殿中上へ下へ の大混亂、遂に上皇の方大敗軍となり、當るを幸ひ四方八方へと斬捨り突捲た、中にも八町礫喜平治の面々一度に五人を倒し十人を傷つけ、呼び叫ん で戰つたれど、如何に鬼神の勇あれば とて廿八人と五百餘騎だから到底敵に する道理がない、況して義朝の軍中には關東名代の荒武者も多くあることゆ ゑ、御曹司の方危く見受たれば、爲朝は如かず此處で敵の大將を威かし我が弓勢を以て敵を退け呉れんと、義朝が莊嚴院の門前に馬を立てたるを見給ひ、大鳴鏑を取出された、此鳴鏑と云ふは矢に鈴が仕込みあつて風を切つて飛ぶ時は、恰も雷の如き響を發します是れは重に敵の勝を寒からしむる時に用ゐるので敵を威すに使ふのであります、爲朝は件の大鳴鏑を滿月の如くに引絞つて兵と放しますれば、其義朝の兜の星を貫き寶莊嚴院の門の半分まで射込んだ、義朝一時はアッと驚かれたが妙ならず、今少し修練がなくてはならぬぞ」爲朝カラ〳〵と打笑ひ「わざと射申さゞるにて候、若し命せられしば何處にても射申さん」と再び弓矢注へたる時、深巢清國進んで義朝の矢面に立ち、見る間に射斃されましてございます、其内に戰さは益烈しく相成り入亂れて奮闘されました流石に諸大將が必死となつて戰ふはるのでなか〳〵來ません、義朝も今は詮方なく西門の方へ火を放ちましたので煙も盛んに立昇り、折柄の西風に殿中上へ下への大混亂、遂に上皇の方大敗軍となり、爲朝も越早是迄なりと廿八騎一歩も退かず奮戰、突擊して、高圓三郎は金子十郎に討れ、手取與二は仙波七郎に組敷れ、悪七別當は齋藤宮藤吉に首を授け、大矢新三郎、越矢新太、松浦二郎、打手等皆討死をした。

廣告

多少示拘苟事御便利
御扶申候
旭町二丁目
質川崎
本町裏通北側
品物入切
保管秘密
最安仕候
電話六七三番

寒る十一月十七日ヒトし同日午後三時より京城市ナルに於て
大親睦會　官民有志秋期
相撲度候條御賛同の會費金二圓を添へ來る十一月十六日（火曜）正午迄京城居留民團役所へ御申込相成度候
追て當日は市内各料理店より花輩を曳廻はし會場に於ても餘興手踊可致
明治四十二年十一月十二日
發起人　中村常市　再造
和田茂七郎　邸
三浦彌五郎

京城南治町一丁目
醫學士　佐佐木四方志
佐佐木醫院
（電話八一二番）

今回旭町一丁目出張所に架設換致候
一丁目出張所
電話千五拾番を鐘路通
増本好三郎事務所

十五日發行の
法政新聞
第四號

▲法權委任統監府裁判所法規其他諸法律及樣式全部臨時增刊により完結▲法權委任司法廳職員、判檢事以下裁判所職員、司法警察官全部の叙任は本號及來る二十日發行の臨時增刊により完結せしめ故に（本紙は統監府裁判所の諸法規之れに伴ふ諸法律及樣式全部の類纂と司法廳及び裁判所、警察官署の職員錄とを兼ね其至便なること論を俟たず而かも價の廉なること本段廣告の如し）其他本紙は司法行政官執務上の便に資せんが爲め▲國分高等法院檢事總長の守會議席上に於ける警察部長の會議に於る法律運用に關する司法警察官執務上の訓示頁數▲平渡内部書記官の韓國に於ける行政の實質▲某大官の警察官の心得▲人物月旦▲判例批判其他重要記事何に關する實益を與ふる見よ

臨時增刊は郵税共二十錢の實費とす

發行所　京城中部磚洞（電話一〇六七）
藝井辯護士方
法政新聞社

發賣所　京城川治町
東拓會社前
法律書類取次及名刺葉書印刷
法文堂

本社は從來發行の日文法政新聞集金及前金受領に對する責任、豫約刊行物責任の外韓人經營の法政新聞とは何等關係無之候也
法政新聞主幹　吉田松太郎

定價　一ヶ月金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢
廣告料金　一枚金二錢▲一ヶ月前金壹圓▲三ヶ月前金貳圓▲六ヶ月前金五圓▲郵税一ヶ月十三錢

株式會社　第一銀行電話番號

總支店（長）　一二六〇番
（支）　一二六一番
（國庫）　一二三二番
（發）　一二三三番
（當）　一二三四番
（營業）　一〇六番
（用度係）　一二一番
（來客用）　一二一番
（營業、當直用）

京城支店（長）　六一一番

國庫部、發行部用
支配人、調査部、文藝課用
國庫部、發行部、當直用
臨時建築部用
用度係、分析所用
營業、當直用
營業用

京城雜報

韓銀の開業に就て

韓國銀行は、既に諸般の準備を了へ、市原總裁以下理事監事に至るまで、夫れ夫れ既に人選をも了へ、近く將に來る二十一日を以て、第一銀行より財産の引継を受け、二十四日を以て業務の開始を見るに至らんとす。而して如何なる理由の下に韓銀の韓國に設立せらるゝに至りしか、又た如何なる方法と如何なる方針との下に、如何なる業務を執るべきかは、世人の既に知悉する所なるが、余輩は種々の事情に因り世の批難の隨分集まりたる第一銀行の業務を此の新たなる韓銀に引継ぐを見るに當り多少の憂なき能はざるしも余輩は今韓銀が一銀の業務を直に其の儘に引き継ぎたるが上に、韓銀の重役の顔ぶれが一銀の其れと殆ども同一なるを見るに及んで、心私かに杞憂の程度を減せんとす從來一銀が受けたる世上の批難が果して其の當を得たるものなりしや否やは、余輩の知らざる所なりと雖ども苟も數々批難の放たれたるより見れば多少は世間に就ても又銀の内部に於ても何等かの事情の伏在しありたるやも圖り知るべからず、而して韓銀が今其の業務を引継ぐに當つて、此の放たれたる批難の聲も亦た同時に嫁せられざるべからざるは、數の免かれざる所に属す、新たに就職せる重役諸子の當に覺悟せざるべからざる所とす、然れども余輩は斯く言へばとて、直に韓銀の先幸なからんを言ひたるものには非ず韓銀の重役行員の殆んど全部が一銀の人々にして多年親しく一銀に於て一銀の骨めたる苦痛及び受けたる批難を知悉し經驗したるを以て、此の批難の由て以て來る所を改め、將來應に執るべき方針乃至は應に戒しむべき事柄をも辨へ、韓銀をして其の過ちを再びせしめざらんとには最も以て都合よき也。韓國銀行が之を内にして、株主等の滿足する迄に、十分の配當を行ふこと〳〵之を外にして自ら中央銀行の立ち場を忘れ、他の諸銀行と競爭せざるべからざるが如きに至らしめざるとは、一に偏つて重役諸子の腕によるべきも、之れは是れ多くの日月を經るにあらざれば、〳〵以て功を見ざるべき也。余輩は韓國銀行の今將に開業せんとするに當て一言爵て此の事に及ぶは、亦た同行の先途を祝福すればなり、若し夫れ精細の論評に至つては、他日之を其の營業振りに見て、大に試みる所あるべしと雖ども願はくは韓銀の重役たる諸子が此際慎重に慎重の態度を持し開業早々の方面よりも批難の聲を浴さゞるの覺悟を行せんことを。

東京電報

歳入と歳出總計

大藏省主計課による調査に依れば四十二年十月末日迄の歳入現計は歳入總計三億七千六十二萬千六百九十圓三十錢にして之を先年同期に比すれば九千九百六十二萬千四百四十圓を增加し歳出總計は二億五千六百十二萬八百三十四圓にして之を先年同期に比すれば千六十八萬五千七百八十二圓を減じたり（十四日發電）

對韓問題と記者談

新聞通信記者其他同志者は昨夜階樂園に會合し左の決議を爲せり（同上）吾人は韓國の近狀に鑑み根本より對韓政策を一變するの必要を認め此が遂行を期す

郵船支店の廢止

郵船會社浦鹽及仁川の兩支店は今回廢止する事に内定し事務は代理店をして處理せしむる筈（十五日）

兩殿下と除幕式

旅順表忠塔の除幕式には伏見宮及び東伏見宮兩殿下參列の事に略ぼ決せるが御乘船は春日、日進の二艦也（同上）

キ元帥の出發期

キッチナー元帥は愈々明十六日西下十九日神戸より乘船歸國す（同上）

觀光外人の增加

秋氣觀光の爲め都下に漫遊する外國人客月來非常に多數となり横濱ホテルに宿泊するもののみにても百六十七名の多きに達し之を昨年同期に比すれば殆んど二割の增加なり（同上）

倉知局長の歸朝

倉知局長は二十日頃迄に歸朝すべしとの報ある安重根事件の終了迄滯在すべしと（同上）

日本醬油の今後

不正醬油檢査の爲め大打擊を受けし日本醬油會社は岩下取締役の歸朝を待ち善後策決定の筈なるが結局古來の釀造法に依り營業を繼續することとなるべし（同上）

旅順は開放に決す

政府は旅順軍港を廢し商港となすに決し近日發表の筈なり（同上）

桂首相の大阪行

伊公爵去の頃め中止となりし桂首相の大阪行は大藏大臣として造幣局の貨幣鑄造試驗に立合ふ必要上本月二十日頃再び實行するべし（同上）

乃木大將の渡滿

旅順白玉山上に建設したる表忠碑除幕式十一月廿八日擧行に就き左の通り達道を命せられたり（同上）

軍事參議官陸軍大將　伯爵　乃木希典
御用有之滿州に被差遣
軍事參議官副官砲兵大尉　伯爵　山田大藏
軍事參議官伯爵　英夫
就き隨行被仰付　十九日擧行の海軍兵學校卒業式に御差遣の筈なりし東伏見宮御風氣の爲め竹田宮恒久王殿下差遣のことに變更されたり

八代鹿兒島鐵道

八代鹿兒島西海岸線鐵道は本期議會に政府案として提出すべく目下測量中也（同上）

駐墺大使は未定

埴國大使後任に就ては最初牧野男に交渉せしに事情あり辭退せる爲め目下行悩みの体なり（同上）

伊集院公使歸朝

同公使歸朝は九月以來の問題なるも今回の歸朝説に就ては未だ何等の通告無し（同）

兩領事召還理由

水野總領事の召喚理由は大西洋沿岸狀況及實業團の結果報告の爲めなるが田中シャートル領事の召喚は通商局勤務となう高平阿部氏と共に關稅改正準備事務に從事する爲めなり（同上）

領事欠員と任命

目下田中領事と共に領事に三名の欠員あれば遠からず領事官補より拔擢し南五名の外交官試驗及第者は來月上旬採用すべし（同上）

日本銀行增資説

日本銀行は財界の發展に應じ兵庫を業固にすると一は韓國銀行合併の必要あり增資を斷行すべしとの説專ら市場に傳はるゝも無根の風説なりと（同上）

二領事の新任所

明氏は上海在勤を副領事土屋參議氏は芝罘在勤を命せられたり（同上）

淺間山の大鳴動

淺間山鳴動して雷聲の如く噴煙には至らざるしも爲めに人心恟々なり（同上）

井上孝哉氏昇叙

佐賀縣知事の現職を有せる井上東拓理事は左の如く昇叙されたり（同上）叙高等官二等　佐賀縣知事　井上孝哉

歐州電報

露國と日本將校

日本陸軍特派員一行は聖彼得堡に着し特別の待遇を受け且露帝以一行の爲め特に晩餐會を開きたるが新聞紙は之等を日露親厚の兆なりと稱揚せり（十五日東京發由一）

西印度の大海嘯

西印度に大海嘯あり死傷夥しかる可し（同上）

雜報

來年度の歳入豫算

内國稅徴收來年度豫算は已に調定を了し同時司法費に付ては過濟となりたるが同歳入額も別項蚕種檢査大なる被害による大なる打擊を受けたるが幸ひ徴稅官吏の大なる苦痛なるが幸ひ徴稅官吏の調査と行き其の歳入の至極順調に好傾向に向ひつゝあり結果倖來年度の歳入豫算額も本年よりは無論增加の成績を計上する事を得べしと

軍司令官の出發

軍司令官大久保大將は南韓蚕種試驗場の結果及駐韓軍の情況伏奏の爲め今朝南大門驛發東上せられたり見送人は石塚長官、石井、神原兩少將、外波大佐、三浦理事官、佐竹秘書官、其他司令部憲兵隊各將校統監府各高等官及韓國側よりは李總理各大臣次官、趙總管、李親衛隊長官同武官等にして又龍山よりは木越師團長以下各將校見送り盛んなりき

滿韓大豆の比較

普通大豆は皮の厚薄を以て品質の良否を斷定するものなるが韓國産は滿洲産に比し纖維分少なきは即ち皮の薄き所以にして品質の優れたる證據なるも云ふ分たる油分炭水化物蛋白質三者の合計は韓國大豆は八一七にして滿洲大豆は八〇一なるを以て前者は後者に優れたる事九なり之れ韓國産が滿洲産に比して俗にゴの多き所以なり尚注意すべきは韓國大豆は主要産地の中等品を採りたるに過ぎざれど滿洲産は某會社が歐洲に販路を求む爲め要用者は其成分を示すべく最良品を撰みて分析したる者なるを以てしても韓國生大豆の滿洲産大豆に比較し其品質に於て數等優れたることを知るべし

暴徒出沒と徴稅

地方暴徒により受くる官民の被害は直接間接に實に莫大のものなるが就中徴稅に及す影響は甚大なり固より各地方により多少の程度を異にすれども殊に甚しきは三南地方なりとす是を各道別に上記すれば本年一月初調定額として全羅南北道地稅約百八十萬圓同慶尚道百六十万圓中全羅道のみにて約九十万圓の被害慶尚道は境を全羅に接せる部面最も酷しく北部に至て漸く稀薄なり他黄海道は六十万中一割五分乃至二割江原道は十五萬中約二割の被害にして全國を通じて一割五分强に上るべし以上は唯單に地稅のみなるが家屋稅等の新稅に属する分は未詳なれども是亦た同樣の被害は免れざるべし要するに上叙暴徒の跋扈は單に地稅一面よりするも國政振作を妨碍するもの頗る大にして其一日も速に鎮定に歸せんことを望むと某當局は慨然として語れり

官民親睦大會彙報

十七日擧行の司法權委任實施祝賀會は既報の如く名は官民有志大親睦會と稱するも實は委任司法權實施の祝賀なれば最も盛大に擧行すべく發起人に於て鋭意準備中なり既に確定せる順序左如

一、午後三時半爆竹を合圖に開會
一、發起人を代表せる開會の挨拶
一、來賓の祝辭
一、餘興の手踊
一、午後六時に至り隨意退散

尚は司法權委任協約に就き特別の功勞ある會社統監を始め石塚長官倉富小宮荒井木内俵の各參與官國分佐竹兩秘書官石井横原南少將外波大佐木越中將佐藤十時の兩佐尉官を招待する筈にて既に矣れ〳〵案内狀を發せり又料理屋華密馬陽仁川釜山三三、七三四、七三七、五〇四、七三四、二五七、二〇三、二〇三、七〇〇五、五〇〇六、〇〇〇九、五〇〇四、五〇〇三、九四七、八五四、七七平均海州鎮南浦龍岩浦上大阪上玄米上大豆相場

最近米及大豆相場

上	粉	錢	上	玄米	錢	上	大豆	錢
四、四〇〇	八、九〇〇		五、三〇〇					
三、七三〇	七、五〇〇		五、三〇〇					
四、二五〇	七、二〇〇		三、二〇〇					
三、〇〇〇	七、〇〇〇		三、七〇〇					
四、五〇〇	五、五〇〇		六、〇〇〇					
三、九四	七、八五		四、七七					

木内農商工部次官

既報の通り農商工部次官木内重四郎氏は大藏書記官清水主事を陪へ愈々明後十七日出發の筈日數は三週間位の豫定にして會事迄で到らるゝやも知れずと

京城の鐵道期放會

既報同會も爾來會議所及民團主催となるべき第六師團歸還兵の輸送は本日より開始されたるが其日割は本日龍山、水原、烏致院の各驛より明十六日新義州、平壤、黄州、開城の各驛より乘車十七日全部釜山に集合し同所より御用船にて歸還する豫定なり因に右補充兵は來十二月九日十二日及び十七日釜山及び清津に到着すべしと云ふ

石田支店長死亡

十八銀行仁川支店長石田貞一郎氏は豫て盲腸炎に罹り療養中の處去る十三日午後十時死去せり葬式は廿一日東本願寺別院にて執行

●學部編輯官新任　福岡縣立農學校長たりし澤識太郎氏は今回學部編輯官兼事務官に招聘せられ不日着任の筈

●片岡警視の入京　元山警察署長片岡左一郎氏は十四日入京金澤旅館投宿

●檢事佐藤金助氏　木浦區裁判所檢事の同氏は十四日入京浦見旅館へ投宿

●岡田部長の來着　慶北警察部長警視岡田宣發氏昨日着京山本旅館へ投宿

●須藤事務官來京　平壤財務監督局事務官須藤素氏十四日入京不知火投宿

●北浦專賣局技師　東京烟草專賣局技師北浦重之氏昨日入京巴城館へ投宿

●八田技師の出發　統監府間島派出田所技師八吉平氏昨日出發赴任したり

●土谷檢事の赴任　土谷檢事は釜山區裁判所檢事に轉任本日任地へ出發す

●海州典獄の赴任　海州典獄古垣宗次郎氏は一昨日筑後川丸に便乘赴任す

●豫備金支出裁可　帝室債務仕拂金二千七百圓豫備金より支出の件裁可す

市原總裁の談

記者は本日新任韓銀總裁市原盛宏氏を一銀支配人室に訪ふ總裁は今しも統監邸より歸りて昨夜同行歸城したる水越理事と要談中であつたが快く記者を引いて左の如く語つた△韓國とは却々因緣が深いと見へて又引續き歸世話になる事になつたよ△東京滯在中は大分新聞記者諸君にいじめられたが伊藤公兇變以來は其方へ全力を注いだと見へて韓銀なども寄り付く記者はなかつた△東京の用事でまか巻濟んだ日本國風金取扱に就ては大藏省及第一銀行と交渉を遂げ韓銀に於て取扱ふ事に契約を結んだ△一銀との財産引繼きに就ては成べく休日を利用して業務を休まぬと云ふので廿一日曜日から引繼ぎを開始し廿三日の祭日で終る筈既に準備を整へてあるから遲滯なく濟すつもりです△各支店出張所は釜山を除き他は在來の一銀支店出張所を其儘引繼ぐ事になつて居る但大邱丈は從來の出張所を支店と改め其他の機關は當分現狀を維持し漸次增設改良する方針である△行員も成べく一銀行員を採用し事務の澁滞なからしむる考です然し成べく小世帶にし經費を節減する積です

●漁業協約の紀念宴　本技師等四十餘名にして盛會を極めた。

十三日午後一時より農商工部水産局員

●京龍間の堀井調査

（甲）堀井周圍の關係善良にして設備完全飲用上無害なるもの日人の部六十一個韓人の部六十七個（乙）修繕を

日人の部六百七十二個韓人の部五百九十六個さして日本式堀井總計六百七十二個の内最良飲用水の堀井は僅に理化學的檢査を行ふ筈なるが今その意見を聞くに（一）井壁悉く人造石を用ひ周圍は四尺四方とし排水溝は大小仕切らい樣客を設ひむる由、

神宮大廟曆本頒布

神宮奉齋の韓國各理事廳管下に於ける在留民に對し皇大神宮大廟及び四十三年度曆本頒布を一兩日中より開始する筈なるが今年よりは同會韓國本部設置の爲め總て直轄として部員城山春吉氏を以て擔任せしめ既に各地方へは其々發送中なる由因に同會本部落成の上は來春四月下旬を期し副總裁二條公爵渡韓する事に決定せりと

龍山驛の營業成績

十一月上旬龍山驛營業成績左の如し

乘車人員	二千六百七十人
同賃金	二千四百四十四圓五十一錢
降車人員	三千二百四十二人
同賃金	九千三百七十七圓
發着手荷物斤量	百四十九圓七十七錢
同賃金	三百九十四圓七十錢
發送貨物屯數	六百五十二圓廿三錢
同賃金	二千〇二十五噸
到着貨物噸數	六百五十二圓廿三錢
同賃金	二千〇二十五噸
客車收入金	二千六百十七圓十一錢
貨車收入金	千〇四十一圓二十九錢

女子種痘員の採用

龍山鎮城京畿全南江原忠南平北の各道に十一名の女子種痘認許員を採用したるに就て踏躙の良好なるより今回右の成績を同慶南北成南慶南の六道に賞海京畿平南成北成南慶南の六道觀察使より認許員採用に關し内部へ申出でありて不日更に後鳳字外口人女子十三名採用の事に決定したりと云ふ

一銀引繼立會官吏

來る廿一日より第一銀行と韓國銀行との間に事務引繼を開始するに就き藤原監理官は京城本店に野阪事務官は仁川支店に阿部事務官は木浦に主事豊田法學士は開城支店に出張立會する事に決定し阿部事務官は十六日出發すべし

滿期歸休兵の歸還

龍山水原大邱方面滯營中の歩兵第十三聯隊及騎砲工兵の各科兵員八百四十八名は今朝九時五分龍山出發歸還せり尚ほ明十六日は平壤駐在の歩兵第二十三聯隊八百四十二名歸還する由而して右は就れも本隊歸營の上滿期除隊となる

香阪法務院長出發

大審院判事に轉じたる香阪元法務院長は本日午前九時發列車にて東上赴任す

社寺の保存費豫算

社寺保存の爲内部にては來年度に之が保存費豫算二万圓を度支部に請求せり

附屬醫學校落成式

明十六日午後一時三十分より大韓醫院附屬醫學校の落成式を擧行する筈也と

市原韓銀總裁歸

京韓國銀行總裁市原盛宏氏は昨夜歸京す

龍山通信（十五日支局報）

●民會の召集　龍山民會は來る十八日午後一時より開會議長及會計檢査委員の選擧を了りて前回の會議より宿題となり居れる民團功勞者表彰規則制定の件外一二議案を附議する豫定なりと

●防火と用水　龍山民團に於ては新舊市街の中間を流るゝ旭川の二ケ所に堰止め工事を施し防火用の貯水を爲す筈にて本月より該工事に着手したり

●議員の送迎　明午後五時より龍山入營に於て新舊議員送迎會開催の筈

●歸還兵輸送　本月來滿期除隊となるべき第六師團歸還兵の輸送は本日より開始されたるが其日割は本日龍山、水原、烏致院の各驛より明十六日新義州、平壤、黄州、開城の各驛より乘

（郵便物認可）

明治四十二年十一月十五日 京城新報 第二百六十四號 （月曜日）

水源地を見せら記

（一）

桑子

十三日の午後水道會社の社員だが編輯の人に會ひたいと申込まれた、元來驚くには當らぬから驚かない、驚かないとて夫れが禁いのでないから別段自慢も致さない、早速に會つて見ると支配人バーハム氏の使者である、其の口上に曰く「御多用と御推察致しますが何うか一つ明日十一時迄に水口門即ち東小門へ御足勞願ひまして貯水地を御覽を願ひ夫れから水原地の御視察を願ひまして其所で粗餐を差上げたい」との事である、水原地や貯水池の現狀は此の水に頼りて維げる命の所有地たる吾人は請ふても見て置く必要がある、と思つたから其厚意を謝して必ず罷出づる旨を申答へして其使者の仁は歸りしたが所謂粗餐と水源地とに何れ程の關係と蜜緣と而して必要とがあつたのかは唐突なので考へ付かぬ、或る識者に聞いたら「夫れは考へぬことに爲て終つた。

閑話休題、其の使者の仁の口上を其の儘社長に取次いだ所が「然う云ふ理由なら足下に行つて貰はう、僕は日曜には集會があるから……バーハム君には足下から其の旨を傳へて居いて呉れ」との事、委細了承して直ちに日々社の日城子に電話して同行を求めて同子の同意を得た、全体水源地は御承知の通り露島にあるので、聞けば暴徒も徘徊する相だが日城子と云ふ伴れがある、假令ドンと行られても道連れはある、死なば諸共である、との深い企みのあつたことしは日城子も知らなかつたらふ、他人は油斷の出來ないものとは此點の事だなと自分ながら感心した。

十四日の十時半と云ふに日城子を其宅に誘ふ、日城子何やらソワ〳〵と落着かぬ樣子何うした事かと思つたら昨夜半から家内に病人が出來て……との事で都合よくば「僕は今日は失敬する」と來相である、斯くては折角の僕の企らみも水道見物だけに流れて終う譯である、或は日城子の烟眼なる僕の企みの底を見破つての託言ではあるまいか何れにしても天下の大事と觀念の眼を閉ぢて居ると「サア參りませう」と仕度の出來た日城子は僕の前に立つて居る、案ずるよりは産が易いとは此事である此れより先き案内の爲めに來た仁が集合地點を水口門即ち東小門と云はれたので一方ならず閑話付いた、會社へ電話しても暴家留守と見へて出ぬ、聊か中つ腹で又掛けるが出ぬ何返掛けても出ぬ兎に角會社へ行つて見るべしと決心して車に乘る、會社員の要者を捉へて水口門であると云ふ、分明したのだ、夫れつと計りに急ぐ途中で午砲の響きを耳にしたからモウ一行は出立した跡だらうとは承知の上で辿り着くと案の定夫れらしい氣色もない、然りとて默つて戻るも智慧のない話と日人巡査に水道會社のと聞きかけると横合からに「へイ私でと」と唐突である、元來案内其者が唐突である、水道會社は唐突が好きと見へる。

女房の喉突き

▲姦通したる申譯け

世の中の變遷につれて姦通の申譯も品變れりと見ゆ昔は地獄の沙汰も金次第とある頃は姦通の相場も七圓二分と定めありしも今は俗謠にも唄ふやう血あり涙のある伸が聞く夫婦で暮せる譯ゆへ万一姦通の現場を押へられし其時は一寸喉でも引掻いて紅い血を見せホリ涙の一雫も追加しやうものなら夫れ丈で天下は太平に治まる國のれ寶の黄金は町に住む某といふ者あり生國は日本に其が女房は女なり女の亭主は男ゆへに某も矢張り男なるが某は平素甚だ女房を愛するより女房は何時の間にか亭主の肝膽を照し始めたりとも知らぬ亭主は女房を照し始めたりとも知らぬ亭主は女房可愛の一心から無駄金一文も使はずして稼いでは貯め貯めては稼ぐに追付く貧乏は今當世も餘り申が利かず可なり貯め込みしかば某は恁らして置けば彼なる見込みと女房の認可を受け先頃より家屋の建築に取懸りツイ兩三日前棟上げを爲し知人を招きて親宴を開きた り酒間の周旋は某が可愛い女房先登に立ち中劈の藝妓二三名を辛ゐて陰なく れ世辭を振り蒔けば客も主人も嬉しく醉ふて滅法目出度う候ひける其際に女房の姿ヲイと見へやなれり間も無くれた客の一人も居なくなれり亭主はハテ面妖なと窓と其座を脱け次の間を覗いて見れば這は如何に女房は豫て肝膽照らし中なる前記の男と共に今や曲事の眞最中と見たる亭主は前に斷り置きし如く矢張り男に相違なかりし程に雨となり雲となる暇も與へぬ大嵐不義者見つけた其處動くなと躍り込めばハッと愕ける男は脱兎の如く一跳ねはねて逃出せりサテ女房は豫定の行動ぬかりなく手近かにありし刀物を取るより早く喉に當てゝ一搾り搾れば其處は人間の皮肉に刀物正しく紅い血潮が流れ出でけるにぞ亭主は却て驚敗亡こりや待て身を捨てゝし社後記にも うき沈とせし程に同じ流れの樣々に昇る雲井や久方の秋はてゝ夜寒になれば月も冴え渡る秋夜寒になれば侯へかき消す如くうせにけり御委を見へれはしませ夜は來れど夜あらで通ひ給わぬ八百萬の神あそび はまれ岩戸の其はじめ 春や心を誘ふらん 都思ひとは聞けばなつかしや 思ひ凝りの枕より 元の身なから又こゝに 舟を漕ぎ出でる熊手にかけて

文

秋はてゝ月は問ふ人もなし

昨日京城和樂園に於て開催されたる同諧曲會は來會する者官民を通じて約八十名に上り頗る盛況なりしが今度の會合を期とし今後春秋二季に大會を催し尚ほ毎月第一の土曜日を卜し京城婦人會に於て月並會を催すことに決定したりしと云ふ當日の餘興福引の文句は總て諧曲中の句を取りたるものなり其全文左の如し

本

景品

扇子一

たばこ

煙草

錦

小半紙

枕一

灯提

紙屑籠

國旗

盃

京紅

卷紙

指環

メン太魚

鶏一羽

ワカメ

伊藤公國葬の

エハガキ

魚釣具に鯛

木炭新木

菊花

美人ハガ

統監邸内の出火

▲放火の形跡ありとも云ふ

本月十五日正午統監官邸鶴泉亭南側軒下より出火しアワヤ一大事に及ばんとせるを國丁と是を見付け聲を限りに叫呼し統監府へ非常を傳へたる爲め同府員及消防等駈け付け辛ふして鎮火せしめたり同亭は伊藤公の好紀念として永久に保存さるべき貴重なる燈造物なれば曾て統監は特に驚愕し殆んど懸命に全力を盡さしめたる由原因は種々の風説あるも吾が社は更に精探の上報導すべし尚ほ急報に接し見舞人來集し一時は非常の混雜を極めたりと

●觀世流謠曲大會

▲空前の大盛會

軍用金提供を迫る

▲古臭い脅迫手段

仁川警管内なる富平郡堂山面東陽里居住の權昌主方に先日來無名の脅迫書狀數通舞込み軍用金の提供を迫り來る家人は安き心もなく觀々の狀態にありしが去る十二日夜同人宅庭園に埋没して提供せざるに於て新炭諸其他家を燒き掠むべしと脅迫文句を列べあるものから家人は顧ひ上も其旨富平駐在所に訴出かば係警官四名は直に犯人の捜査に着手せしが嫌疑者として李敬千（三）と云へるを逮捕して仁川本署に引致し目下取調中なるが右敬千云ふは非常な惡漢にして從來金浦其他仁川等に強盗又は窃盗を働きし事數度ある不敵の兇漢なりと云ふ

●拾つた指環を賣る

▲計謀中に捕はる

仁川仲町三丁目居住の小管作次郎と云ふが一昨日午後一時頃韓人一名を同道して仁川署に訴出づるよう去る五日同妻ちゑ（二）と云ふが濱町一丁目仲町三丁目に引越をする途中金指環一個を遺失したれば其後捜査中の處一昨日午後四時頃圖らずも濱町一丁目なる歌舞伎座前にて怪しき韓人二名が指環の賣買と相談しつゝある樣に聞認めたるに依り右韓人を取押へて訴出でしとの事に付き節あるにより側に呼寄せて熟視すれば紛らふ方もなき同人妻の所持せし指環なりしに違ひなきに方直に有無をも云はず右韓人を取押へて訴出でしとの其筋に於ては右韓人を留置し取調中

●異樣の風て通行

大分縣下民

當時住所不定藤國次（三）は十三日午前五時頃ボロ姿で本町三丁目を異樣の風體を呈して通行せるを市郷巡査誰何して住所並に行先きを尋ねたるに明答せざるに依り西都署に連行取調べたるに同人は大和町三丁目深水勇一方に奉公爲たるも當日解雇せられ龍山方面に奉公口を探しに行く所と判明し後來を戒めて釋放したり

●賊魁の引渡し

一時は七百の部下を有し近くは百餘の暴徒を隨へて江原道一圓乃至咸鏡南道の一部を横行し惡虐無道蓋さゞる所なき稀有の首魁櫻花濱金億石は先頃我が守備隊の逮捕する所となり當地憲兵分隊に護送し來るし事は既報の如くなるが引渡を取調べ中なるが本日京城地方裁判所に引渡す由なれば彼れの最後も近きにあるべし

●醉拂つて亂暴す

壽町一丁目七番戶無職伊藤一郎（三）は去る十三日午後八時頃南大門通二丁目入口に於て酩酊の結果亂暴にも通行韓人の提灯を破りたる廉に依り南都署に一夜檢束の上醉醒の上説諭放還せり

●犬人を咬て逃ぐ

仁川新町二丁目魚商石田久吉の四男龜太郎（五）は一昨日午後四時宮町二丁目堀番次郎の飼犬に咬み附かれ微傷を被りたるが該犬は其儘行衛を晦ませしたりと

●火賊横行と風説

京城と水原との中間に位する果川郡及び始興郡方面に約三十餘名の火賊横行しつゝある旨其筋に情報ありたりとは物騒千萬

●奴拍子の廢業

藝妓芝居に於て成効したる花月の奴は一昨日限り奇麗薩張り足を洗ひたり

●達摩忌説教

花園町曹洞宗日韓禪寺にては來る十六七日の兩日午後二時より達摩忌法要並に説教ある筈

●新町だより

昨夜新町遊廓の客は百十五人散財高七百四圓四十四錢也

▲壽座

福井伊藤合同劇明十六日及び明後十七日の替りは昨年歌舞伎座にて伊東一座が演じて好評を博したる「新乳姉妹」全六幕

▲壽座

七日の替りは昨年歌舞伎座にて伊東一座が演じて好評を博したる「新乳姉妹」全六幕

△場割（一）長崎病院（二）武村光子下宿（三）圓山公園（四）東京品川海岸（五）芝山内（六）武村俊三宅（七）大森海岸（八）上野園遊會（九）植木屋吉五郎宅（十）不破家奥庭

▲配役 海軍中尉武村俊三 伊藤）植木屋吉五郎 小泉三）武村光子（吉野）不破夏子（藤島）田舎者水落美助、乳母れ豐（北秋）武村俊三妻れ時（柴野）會社員或鳥猛（香月）法學士長田右一（小泉英 侯爵不破頼通（福井茂兵衛）

無害ノ煙草ヲ御照會致シマス EDP金口莨

EDP金口莨は純埃及産にて好馨を含み齒質を堅牢に致シマス故に衛生を重んぜらるゝ好莨諸彦には特に御愛顧を蒙る次第ゼ御座リマス直段は百本入七十五錢以上色々有マス 不抱多少御用命仰付被下度奉願候 洋金口莨 葉巻 パイプ

直輸入商 卸賣 小賣 日希商會 主任メニヤス 電話二二二番 京城南山町三丁目

吉田

本町五丁目 三一館特賣

十一月十六日舊十月四日八白先勝庚辰とる△一白 逆闘の日なり大小となく控へめにすべし旅行金談等効なし△二黑 中絶爭論起り易し又他人のため損害あり△三碧 音信小發を報することあらん爭論負傷避くべし△四綠 陰鬱なる物事徒勞に歸し易し新事改革見合すべし農事殖林には吉△五黄 過失失体失念より損害恥辱を招くなかれ其外平穏△六白 若し快事あり尚旅行開店創業婚姻等吉△七赤 總して盛運の日なり契約相談等克く調ふ又意外の便宜を得ることあり但し誘惑防ぐべし△八白 創始改易の事因女色酒害盜難遺失防ぐべし△九紫 昇進の日なり旅行相談談判契約取組事整ふ右は概括的判斷なり各人格別に付ては直接に同館の鑑定を請はる可し

●天氣豫報（自十五日午後六時至十六日午後六時）

北西の風晴 最低溫度 六〇、三 最高溫度 五〇、〇

十四日（華氏）

廣告

自轉車大安賣

角商會代理店横 前川自轉車店 京城南大門横

謹告

京城旭町三丁目

禮部補城山春吉

右は明治四十二年末皇大神宮大麻及び四十三年度暦本韓國各理事廳管下に於ける頒布擔任ぜしめ候條此段謹告候也

明治四十二年十一月 日

神宮奉齋會 韓國本部

龍山元町二丁目 佐藤病院 電話一〇三番

本塲大島紬絣及縞國產薩摩絣並に吳服物類一切季節向流行新柄

右相揃居候間御注文被下度候尚御注文の節は小包郵便を以て迅速に御屆け可申上候 當店營業案内及柄標本御一報次第送呈可仕候

岩 山形屋吳服店 鹿兒島市金生町 電話六三、二五〇、五五九 振替貯金口座大阪（一七九五）

南大門停車場内喫茶店

西洋料理 一皿 二十錢

コーヒー 紅茶 一杯 五錢

チートース 一人前 十二錢

洋酒 一杯 十五錢

京義線直行列車内食堂

客室内に食卓を設け洋食及び辨當を調進し尚酒、烟草、菓子、果物等販賣致候

右十一月一日より開業致候に付舊に倍し御愛顧御引立の程奉仰候猶喫茶店には清潔なる兩便所の設備も有之候

銀牌受領の祝として三千臺限り直段改正

TM式製繩機一號機 金二十五圓 荷造り費金一圓要す

●燃の強弱は齒車の組合せにより自在に加減出來得るなり

本機の使用法説明書は御申越次第送呈

一日の製繩高一萬尺

東京市下谷區南稲荷町九十番地 種苗農具問屋 谷本清兵衛商店 振替東京七六五番電話下谷五九二番

韓國銀行株買入 京城新報社内

各種洗濯石鹼 專門製造販賣 陸軍館、鑛山、水道、湯屋、散髮、其工業用 京城旭町二丁目 (電話九七三番)

朝日石鹼製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

●外交員募集 一日一圓以上の收入ある外交員一名至急入用氏名在社(四七七)

●店員入用 十六七歲にて確實なる保證人有者 龍山京町古田米店(四八〇)

●下婢入用 十四五歲の下婢を求ひ條暇には裁縫習字讀書禮生花等女子に必用なる教育を施す氏名在社(四七九)

●求職 年廿六餘記に經驗あるもの至急職に就きたし 氏名在社(四八二)

物件部

●貸家本町通り目抜の場所にて貸家あり希望者は來談あれ氏名在社(四七〇)

●自轉車 英國製コースター付格安に賣渡したし 氏名在社(四七二)

●貸家 南山町二丁目二階建十疊と三疊と廊樣二間廻樣井戸物置湯付家賃面談 氏名在社(四七八)

●貸家 北部齊洞け九統四に安價の貸家あり御希望の方は同所の內尾に就き問合せあれ

廣告

當選謝禮廣告

龍山居留團議員の總改選に就ては大方諸彥の深厚なる御同情を得當選の光榮を荷へ候段感謝の至りに不堪候右不取敢以紙上御禮申上候

稲垣敬甚 阪明 林之進 大津百藏 大森嘉藏 村武 渡邊與三郎 海津雄 兼古藏 金井善藏 竹內菊太郎 松本彌藏 藤秀 執行太郎 野猪吉

今回の總選擧に際し多大の御同情を以て御盡力被下候段奉深謝候先は不取敢此段以紙上御禮申上候

牛丸友佐 上野政次郎 佐藤峯太郎

明治四十二年十一月 龍山革新同志會

●●●滋養と牛乳●●●

純良 **牛乳** 京城東四軒町 電話番○六九番

馬車配達

●●●衛生と滋養●●●

岡野牧場

米 東京火災海上運送保險株式會社

資本金一千萬圓●郵務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

明治廿年七月創立●京城代辦店 本町四 山口呉服店 電話九番

木 堅 松 松 薪 炭 薪 賣

卸販

陸軍諸官衙 御用達 薪炭問屋 南商會

同 南川出張所

同 龍山出張所

京城 東大門外御成町(電話五八七)

諸官衙納入多數御入用の節は拙者所有の山林に於て製造仕候間特に勉强致候條多少に不拘御用命被下度願上候

伊藤公爵家寫眞係 小川一眞撮影

故伊藤公爵葬儀係認可

伊藤公國葬寫眞帖

定價 全一冊金壹圓五十錢也送料八錢

故公最近大肖像 原カード刷 ○靈柩橫須賀上陸光景敷圖 ○同新橋停車場より官邸に至る行粧敷圖 ○同沿道雜踏光景敷圖 ○葬儀行粧及沿道光景十敷圖 ○大山東鄕諸元帥棺側徒步光景 ○國葬式場全景 ○元老大臣各國大使公使未亡人遺族其他文武百官參拜光景十敷圖 ○大井村埋葬光景敷圖等大判約五十頁

內容要目

蓋し伊藤家累代の記念の爲に撮影を命せられたるものなるも公の如きは一家の私すべきに非ず國民の以て記念とせざるべからざるもの强て請ふて江湖に頒つ苟くも國民たるもの速かに一本を具へて故偉人を偲ばざるべけんや

發行所 東京新橋日吉町 小川寫眞製判所

韓國特約大販賣 京城明治町一ノ四九 前島商店

追而本帖は故偉人を偲はれて非常に申込者多く來る二十日より御申込順に依り配付可致候間此際至急御申込の程奉希望候敬具

綿わた綿ワタ

ふとん地色々、ふとん調進、太物類、洋反物類

卸問屋 京城明治町一丁目四ツ角 電話六一二番 **唐川商店**

廿五日迄開業祝として一割引

かいきまわた

進物用眞綿 眞綿製防寒具類

京城代理店 京城本町一丁目(長谷川町へ通る) 栗永商店

伊藤公を讃韓國

洋裝大判全一冊 定價金六拾錢 郵稅金六錢

本書は伊藤公が大命を奉じ統監の印綬を帶び韓國に臨みし以來滿洲の朔北の野に韓人の毒手に斃れしまで韓國の心血を灑ぎたる鴻業偉蹟を叙事したるものなり故に其心公が記傳中の重要一部として珍重すべきものなり苟くみならず之れに加へるに著者は統監府機關雷聞なる京城日報主筆なりの必讀を要すべきもの頭に統監眼孫泉亭の讀に拇毫せる公が最近の寫影と京城出發當日統監官邸の叙事精明、卷末に相待てる公が留別詩の其後者は墨痕淋漓、叙事本書の光彩を放つ、尚京城本町二丁目電話百四十五番振替口座九〇五九

發行所 日韓書房

神戶資生分院

◎花柳病專門附、痔一般(注射療法)●入院隨意●

京城相生分院 京城相生町(南門湯橫)

十一月十五日發賣

韓國統監子爵 曾禰荒助閣下題詩

韓國總理大臣 李完用閣下序文

京城日報主筆 法學士 原田豐次郎君編著

新形流行御羽織紐 金帶

弊店の製造品は說明を要せず自ら能く之を語る

御注文の節は遞送料にて御送致申候 東京淺草公園馬道一の廿八

三角堂栗原組糸店

辯護士 特許辯理士 **岩田仙宗**

京城明治町二丁目(佛國敎會前) 電話三五四番

辯護士 岡田榮

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ(紹介ヲ要セス)

京城旭町一丁目六十七番戶 (電話三九八番)

店理代

京城本町電話新三井外 新三井外 大門 井三 井三 目一〇 業丁目 藥房第八 藥房第四 一分店 一七〇 一分店 四九 本店 (各部)

澤庵漬物用大根 大根賣出

並に●鹽●糠●各種子●農具一式●販賣仕候間積々御用命之程願上候現例年の通り品質特撰の上販格廉價を以て御希望に依り漬込の御囑にも可應申候品配達は來る廿五日より開始仕候迄て御希望に依り漬込の御囑にも可應申候

京城本町一丁目(長谷川町筋)

三輪商會 電話三八六番

農商園藝模範場御拂下品 自園栽培

營業科目

和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐デシン 穀物食鹽 諸染料類

各學校御用品調達

委托販賣

東京ランバーダ商會代理店

東京中外アスファルト株式會社代理店

東京千代田生命保險相互會社代理店

藤田合名會社

東京博文館發行書籍特約店

東京金港堂發行書籍特約店

釜山臺鹽合資會社食鹽特約店

本社 京城電話明治二三〇番

出張所 東京橋電地十番 南鍋橋三丁目一六 東京橋新橋二丁目二九

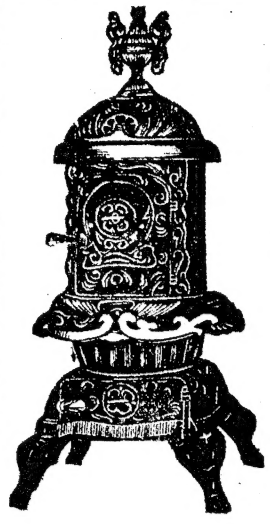
暖爐各種

廣告

煙突取付並二煙突掃除大勉强

電四七一番 **馬木勇吉** 龍山山下町兵器廠官舍前入口

電三六四番 馬木支店



時節柄敷物及夜具等新調仕り室內の設備も相整申候御客樣に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉强可仕候間倍舊の御引立奉願候

原金旅館 京城南山町四丁目 (電話長一〇七番)

大上商店

自製 特約販賣 漬物味噌製造元 醬油

京城本町五丁目 (電話一一五一番)

和洋酒、國精酒、穀物麵類、銘茶、鑵詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糧、塩辛、日本食鹽各種特約販賣商御望に依り商品切手調進仕候

眼科專門

京城本町一丁目憲兵分遣所前

江頭眼科醫院 (電話三三)

前滿鐵病院眼科部長 醫學士 **江頭富雄**

入院隨意

南山町二丁目

松岡醫院

電話六七五番

各科診療

★株式會社百三十銀行 韓國總支店

京城本町二丁目十五番戶 電話五十八番

資本金五百萬圓 頭取 安田善三郎

爲替取組先

畿內 大阪、京都、西陣、伏見、奈良、郡山、八木、高田、田原本、堺、貝塚、神戶、平野、岸和田、御影、兵庫、

東海道 住吉、天王寺、木下、市場、大磯、甲府、靜岡、東京、橫濱、

東山道 山田、桑名、松阪、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、彥根、

北陸道 名古屋、半田、熱田、四日市、津、

山陰道 米子、境、松江、久手、大田、

山陽道 玉島、福山、鞆、姬路、西大寺、笠岡、高梁、下關、萩、德山、小郡、長府、柳井、平生、

南海道 尾鷲、州本、八幡濱、川之石、宇和島、

西海道 久留米、若津、中津、小倉、門司、伊萬里、牛津、長崎、佐賀、別府、大分、宮崎、鹿兒島、八幡、

北海道 函館、

台灣 基北、彰南、

滿韓國 仁川、釜山、元山、鎭南浦、平壤、木浦、羅州、大邱、新山、安東縣、晉州、尙州、馬山、

銀行一般の業務精々便利取扱可申候

日本郵船株式會社 電話三九番 **滿船仁川出帆** 貨物及船客取扱店 廣告十番

仁川海岸通

●釜山(長崎、門司、神戶行)

山東 丸 十一月廿日午後三時出

●大連、太沽行 砂 丸 十一月十八日正午時出

大連、芝罘、秦皇島行

山東 丸 十一月七日午前六時出

●大連行 丸 十二月七日正午時出

酒田 ●釜山出帆 元山、清津、浦鹽行 丸 十一月十七日午後時出

●釜山 神戶 丸 十一月十七日午後時出

立 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ヲ御送リ可申候送迎船ニテ本船出帆ノ五十分前ニ解纜ノ事

注意

郡回漕店